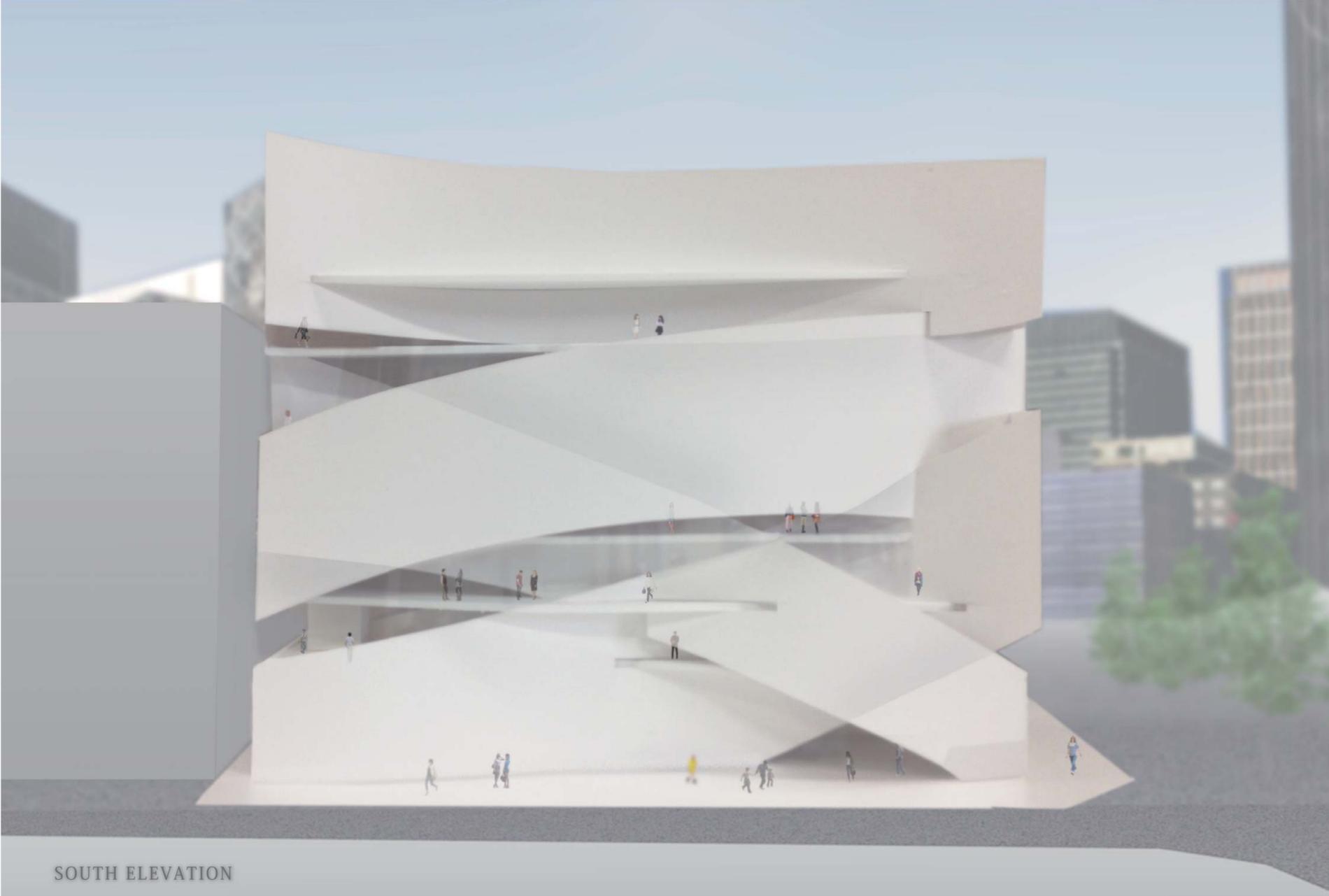


# 虚のカーテンウォール

## CONCEPT

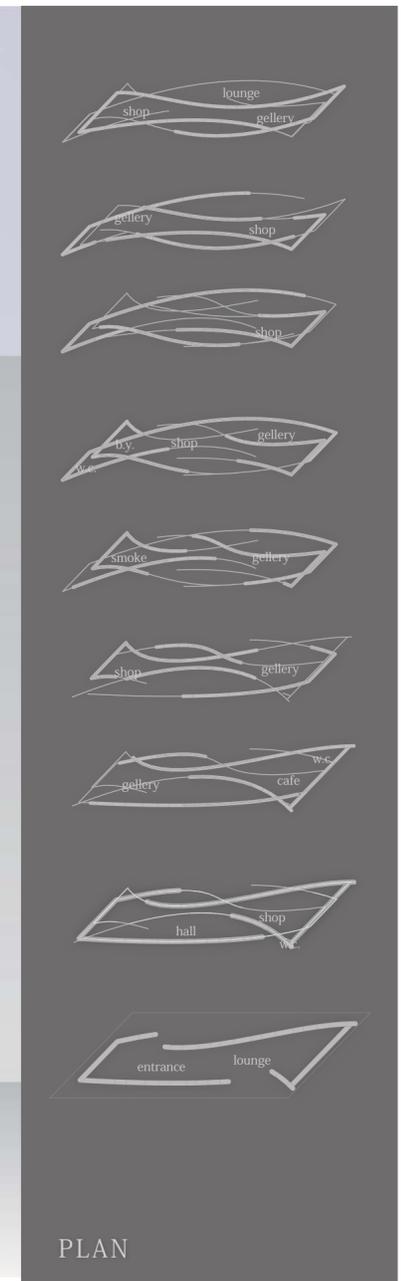
カーテンウォールにより、大型建築のファサードの在り方は劇的に変化した。  
 しかし、外部からの可視性の高いそのファサードは逆に内部空間への人々想像力を減らしているのではないか。  
 実質的な透明でなく、見えるようで見えない感覚的な透明。外皮から内部空間へと続いていく、人々の想像力を膨らませる新たな建築の外皮（スキン）。2020年のカーテンウォールの提案。



SOUTH ELEVATION

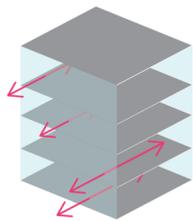


SECTION PLAN 1/300



PLAN

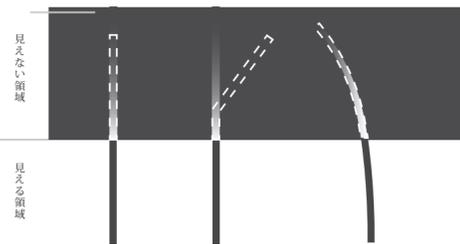
## DIAGRAM



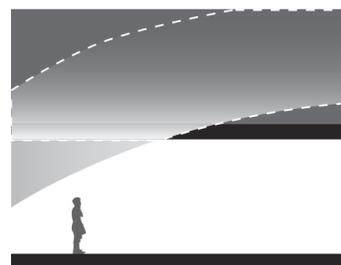
カーテンウォールによって生み出された可視性の高い建築。これは実体としての透明である。



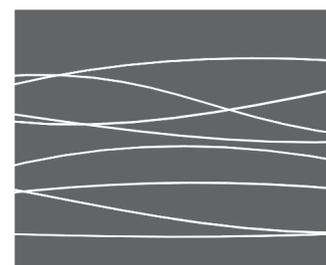
家具におけるカーテンは奥の実態は見えないがその向こう側を想像させる感覚的な透明である。このような外皮の在り方が新たなビルにあるのではないか、



プランニングにおいて直線と人々が想像する像（虚像）と実際の像（実像）がずれてしまう。  
 切り替わりだ  
 緩やかな曲面は虚像と実像が一致する。



その理論は平面的にだけでなく、断面的にもいえることである。断面的にもこのような構成にすることによって、スラブが感覚的に透明になる。



このような曲面が水平方向・垂直方向にいくつも重なることにより、内と外・層と層の境界が曖昧な新たな建築のスキンが生まれる。

